



交流の輪ひろげよう

Ring

Ring

りんぐりんぐ

第75号
VOL.75

八戸国際交流協会

Hachinohe International Relations Association

2026年2月発行

Published February 2026

学生の国際交流 特集号!



★りんぐりんぐは、オンラインでも読むことができます▶

2025年11月30日(日)YSアリーナで、多文化交流ラボ「しゃべるべ」の運動会イベントを開催しました。今回は、八戸北高校の生徒さんが企画を担当。日本人・外国人共に子供の参加者が多く、借り物競争や風船バレーなどの競技を楽しみながら、多文化交流をしました。⇒ 詳細は3ページへ

交流するともっと
わかる世界のこと。

Index

- P2~3 ... 国際交流員からのイベント報告
- P4 八戸市の外国語指導助手 (ALT) の紹介
- P5 ALTイサック先生のボランティア活動、学生団体紹介
- P6 JENESYSプログラム フィリピン派遣研修レポート
- P7 見て、感じて、学ぶ——好奇心が開く世界：台湾
- P8 外国人住民向け情報、会員・ボランティア募集

会員数

個人

105

団体

47

(2026年1月末現在)

国際交流員からのイベント報告

八戸国際交流フェスタ

10月19日(日)、秋晴れの空の下、「八戸国際交流フェスタ」がマチニワで開催されました。ホコテンと同日開催とい

うこともあり、親子連れや学生、外国人住民など多くの方々が来場してくれました。

オープニングでは、在住フィリピン人のみなさんによる伝統舞踊「バンブーダンス」と、インドネシア人のお二人による「シラット」演武が披露され、華やかにイベントがスタート。各ブースでは、外国人ボランティアと気軽におしゃべりしたり、色鮮やかな民族衣装の試着体験ができたりと、多様な文化に触れられる機会が盛りだくさん。どのブースでも「やってみる」「話してみる」ことで自然な交流が生まれ、会場全体が笑顔と会話であふれていました。そしてフィナーレでは、来場者とスタッフが輪になって一緒に「八戸小唄」を踊り、楽しい余韻の中でイベントを締めくくりました。



フィリピンのバンブーダンス



インドネシアのシラット



協会ブース
ボードゲームをしながら交流



MJEC日本語教室ブース
トートバッグ作り



八戸学院大学ブース ハーバリウム作り



フィナーレはみんなで八戸小唄

今年は、学生や外国人ボランティアが企画・運営に積極的に携わってくれたことも、大きな支えとなりました。来年度は、在住外国人のみなさんが自国の文化や魅力を発信できる場をさらに充実させるとともに、地域の方々が世界の多様性を身近に感じられるイベントにパワーアップできればと思っていますので、ぜひお楽しみに！

学生ボランティアの声

八戸国際交流協会のInstagramを見て、やってみたいと思い参加しました。当日は、ALTの先生と一緒に協会ブースを担当し、お客さんと一緒にボードゲームをしたり、お菓子を配ったりしました。最初はお客さんとうまく接することができるか不安でしたが、周りのみなさんに助けていただきながら楽しく活動することができました。

まいさわ ひな
米沢 陽花さん(八戸高校1年)

私達が開催した国際交流イベントを一緒に運営していた際に誘ってもらい、元々興味があったので参加しました。市民の方々と交流をし、八戸に住む多様な人たちと共にイベントを作り上げられたことは、自分にとって良い経験になったと思います。

くどう せいや
工藤 聖矢さん(八戸学院大学3年)

ハーバリウム体験で、ドライフラワーの選び方やボトルへ入れる時のポイントなどを説明しました。作業をサポートしながら、参加者の皆さんと趣味の話や日々の出来事など、色々な話ができました。世代やバックグラウンドを超えた交流を通じて、改めて人との繋がり的重要性を感じました。

いわや ありす
岩谷 有寿さん(八戸学院大学3年)

国際交流に強い興味があったため参加しました。普段だったら会うことのない様々な人々と関わり、一緒に何かをすることで刺激を貰うことができました。

まるやま たいが
丸山 泰風さん(八戸学院大学3年)

地元は十和田ですが、自分が住んでいるところを少しでも盛り上げたいという気持ちがあり参加しました。自分の住む街がもっと良くなってほしいという思いはありつつ、実際に行動には移せていない人が多いと思います。まずはその第一歩として、こういったイベントに企画段階から参加してみるのも良いのではと思います。

はしもとつばさ
橋本 翼さん(八戸工業大学4年)

多文化交流ラボ「しゃべるべ」

バスケットボール×国際交流

9月7日(日)、多文化交流ラボ「しゃべるべ」の第4回イベントとして「バスケットボール×国際交流」を開催しました。当日は、日本人・

外国人あわせて約30名が参加し、終始にぎやかで温かい交流の時間となりました。

イベントは、初めてバスケットボールに触れる方でも安心して楽しめるよう、ウォーミングアップと基本練習からスタート。シュートやパスの練習を通して自然と声を掛け合ううちに、初対面の緊張もいつの間にかほぐれ、会場には笑顔が広がっていきました。

メインの3on3トーナメントでは、各チームに必ず国籍の違うメンバーが入るよう編成。言葉や文化の壁を越えて、参加者同士、ジェスチャーや簡単な英語・日本語で声を掛け合いながら、見事なチームプレーを披露してくれました。

優勝したのは、日本人学生と八戸在住フィリピン人メンバーで構成されたチーム。表彰式では、賞品のお菓子を仲良く分け合う姿が見られ、スポーツを通じた交流の力をあらためて感じる瞬間となりました。



今回のイベントが好評だったことを受け、私、国際交流員 ジュンジ・ヤンは、新たにバスケットボールサークル「Hachinohe Hoopers」を立ち上げました。バスケットボールをきっかけに、八戸在住の外国人と日本人が継続的に交流できる場として運営していきます。興味のある方は、Instagramで「Hachinohe Hoopers」と検索してみてください。皆さんの参加をお待ちしています！

しゃべるべ運動会

11月30日(日)は、YSアリーナ八戸にて「しゃべるべ運動会」を開催しました。八戸在住の外国人と日本人、合わせて40名以上が参加し、日本の秋の風物詩である運動会を通じて、世代と国境を越えた交流の時間を楽しみました。

今回の「しゃべるべ」は、特別に八戸北高校の生徒さんが企画を担当。箱運び、風船パレー、借り物競争の3種目が用意されました。箱運びでは、大人が新聞紙で作った棒2本で箱を運ぶ一方で、小学生以下の子どもたちは手を使える特別ルールを設けました。子どもたちの活発な動きに対し、大人たちが棒で運ぶのに苦労する様子が、会場に和やかな笑いをもたらしました。

特に大きな盛り上がりを見せたのは風船パレー。チーム全員で輪を作り、空中の風船が地面に落ちないようにする競技です。

20秒ごとに新しい風船が追加されていくため、ゲームは後半にかけてより難しくなっていきます。参加者たちは、増え続ける風船を追いながら、互いに声を掛け合い、時に軽やかに、時に慌てふためきながらも、協力していました。

競技の合間には、参加者同士での会話も生まれ、初めて会う方々が自然に打ち解け合う様子が印象的でした。異なる文化背景を持つ人々が、世代をも超えて、共に楽しみ、同じ時間を分かち合う場を作ることができました。

企画した高校生の声

授業の一環として、地域の課題を見つけ、その解決策を考え実行する活動をする事になり、私達のグループは「八戸に多く住む外国人との国際交流活動」をテーマにしました。八戸国際交流協会の事務局で、在八の外国人の状況や国際交流活動について話を聞いた上で、今回の運動会の企画・運営を自分たちで考えました。大学で、国際活動に関する勉強をしたいと思っているので、すごく参考になりましたし、イベント終了後には、参加者全員に日本語と英語でインタビューができてよかったです！

みんだいち さき
金田一咲葵さん(八戸北高校2年)

多文化交流ラボ「しゃべるべ」の令和7年度開催報告

- | | | | | | |
|---------------|------|--------|---------------|-------|--------|
| 第1回 種差トレイル | 5/18 | 参加者30人 | 第5回 流鏝馬体験 | 9/23 | 参加者20人 |
| 第2回 囲碁体験 | 6/21 | 参加者20人 | 第6回 運動会 | 11/30 | 参加者42人 |
| 第3回 トランポリンパーク | 7/26 | 参加者18人 | 第7回 たこ焼きパーティー | 1/18 | 参加者19人 |
| 第4回 バスケットボール | 9/7 | 参加者31人 | | | |

8年度も様々なアクティビティを企画します。お楽しみに！

今年度の「しゃべるべ」に参加してくださったみなさん、ありがとうございました。

協会イベント等の最新情報は、Instagram またはFacebookをチェック！



2025年度 八戸市の外国語指導助手(ALT)を紹介します



ジャスティン ジョージー
Justin Georgie
担当校：第一中・中居林小
吹上小
国 籍：アメリカ



サラ ミック
Sarah Mick
担当校：第二中・八戸小
城下小
国 籍：アメリカ



セーヌケンヴェールヴェリチャム
Thenukan Velvelicham
担当校：第三中・柏崎小
国 籍：カナダ



ローサ メレーロ
Rosa Melero
担当校：長者中・長者小
関南小
国 籍：アメリカ



**ブライアン マイケル
フィッツジェラルドジュニア**
Brian Michael Fitzgerald Jr
担当校：江陽中・江陽小・吹上小
国 籍：アメリカ



ブラッドリー ゴフ
Bradley Gough
担当校：小中野中・小中野小
根城中・江南小
国 籍：英国



スティヴン ジョーギ
Stephen Jogie
担当校：湊中・青潮小
国 籍：トリニダード・トバゴ



クリスティーン サラオ
Christine Salao
担当校：白銀中・白銀小
白鷗小
国 籍：フィリピン共和国



パトリック ロバーツ
Patrick Roberts
担当校：白銀南中・白銀南小
国 籍：アメリカ



キャリー ウィリアムソン
Callie Williamson
担当校：鮫中・鮫小・湊小
国 籍：カナダ



ジョーダン ミラシャス
Jordan Milashus
担当校：南浜中・種差小・大久喜小
金浜小・高館小
国 籍：アメリカ



ジャレッド コリンズ
Jared Collins
担当校：根城中・根城小
田面木小
国 籍：英国



ライレン ペグリシ
Rylan Pugliese
担当校：下長中・下長小
城北小
国 籍：アメリカ



キーリー ワグナー
Keeli Wagner
担当校：北稜中・根岸小
多賀小
国 籍：アメリカ



クリスチャン アレン
Christian Allen
担当校：是川中・是川小・島守中
島守小・総合教育センター
国 籍：アメリカ



キャスリーンメイヴィクトリア
Kathleen Mae Victoria
担当校：三条中・三条小
西園小
国 籍：フィリピン共和国



メンチー アン カルドーサ
Menchie Ann Cardoso
担当校：明治中・明治小・豊崎中
豊崎小・総合教育センター
国 籍：フィリピン共和国



イサック スピノソ
Isaac Spinoso
担当校：市川中・桔梗野小
轟木小・多賀台小
国 籍：アメリカ

私たちは、
グローバル社会で活躍する
人材育成のため
小・中学校の外国語(活動)・
英語の授業を行う
先生の補助を行っています。

他 1名います。
(担当校：白山台中・白山台小・西白山台小)

みなさんどうぞよろしく
お願いします!



エンゾ ブレク
Enzo Blake
担当校：大館中・新井田小
国 籍：アメリカ



グインネヴェア クラーク
Gwynnevere Clark
担当校：東中・町畑小
旭ヶ丘小
国 籍：アメリカ



ローデス ビバンコ
Lourdes Vivanco
担当校：中沢中・南郷小・白山台中
白山台小・西白山台小
国 籍：アメリカ



イサック

スピノソ

Isaac Spinoso先生のボランティア活動



イサック先生は、2021年12月から、市川学区の4校に外国語指導助手(ALT)として勤務しています。幼児への英語教育の必要性を感じていたイサック先生は、同じ考えを抱く、認定こども園とどろき保育園の園長先生と出会い、月に1度、ボランティアで子ども達に英語を教えています。そんなイサック先生に、いくつか質問をしてみました。



イサック先生オリジナル「カウボーイゲーム」で英語を学ぶ園児たち

Q1. プライベートな時間を使って、園児に英語を教えるボランティアをしようと思ったのはなぜですか？

A. 幼児期から外国人と接し、言葉だけでなく異文化にも触れながら交流することで、コミュニケーションへのハードルは大きく下がると考えています。私には、そうした経験を子ども達に届ける役割があると思ったからです。



園児たちの発表をしっかりと聞きたいイサック先生

Q2. ボランティアで心がけていることはなんですか？

A. きめ細かく丁寧に教えることを心がけています。また、地域の方々とのつながりを大切にしながら、広くコミュニティーを築いていきたいと思っています。

英語の授業の日は、いつもの土曜日より積極的に登園する園児が増えるほど人気だそうです。授業の最後の質問コーナーも、イサック先生に関する質問ばかりで、園児たちの興味がしっかりと伝わってきました。

学生団体LINDEAL

私たちは「地方と都会の格差をなくす」ことを理念に活動する、青森県の高校生主体の団体です。主に県内の学生を対象に無料イベントを開催しています。

2025年8月16日(土)には、他国の文化への理解を深め、八戸に在住する外国人の方々をより身近に感じてもらうことを目的とした異文化交流イベント「Hello! New Cultures!」を、はっちにて開催しました。

イベントは、カードゲーム「ITO」でのアイスブレイクにはじまり、生活や文化について語り合う対話型アクティビティ、文化の違いを楽しむジェスチャーゲーム、世界のボードゲームで遊ぶ「出張版しゃべるべ」の4つの内容で構成しました。国籍に関わらず、参加者が笑顔で交流する姿が多く見られ、大変有意義な時間となりました。当日の様子は、団体公式Instagramでも紹介していますので、ぜひご覧ください。

なお、本イベントは八戸国際交流協会様との共催で実施しました。技能実習生への告知や企画面でのご提案など、多大なご支援をいただき、無事に成功へと導くことができました。心より感謝申し上げます。

学生団体LINDEAL代表

坂本 大起(八戸聖ウルスラ学院高校 2年)

Instagram: @aomori_lindeal



テラスでると自然がいっぱい小鳥のさえずりと花と緑にカゴまれば

とどろき保育園

認定こども園

〒039-2241 八戸市市川町字轟木前34-3
TEL:0178-52-5511
FAX:0178-52-5503
ホームページ: <http://www.todoroki.info/>

使用済み自動車・事故車の買取・書類手続き

株式会社 自動車リサイクル/情報機器リサイクル

エコブリッジ

ecobridge.

〒039-2241 青森県八戸市大字市川町字下揚45-10
tel.0178-38-6558 fax.0178-38-6571 www.ecobridge.co.jp

JENESYSプログラム フィリピン派遣研修レポート

たしほな かすみ
橘 香澄さん

八戸市出身
青森公立大学 4年



在フィリピン
日本国大使館
表敬訪問

私が今回参加したプログラムは、日本国政府(外務省)が推進する人的交流事業、対日理解促進交流プログラム「JENESYS(*) 2025」です。

このプログラムに参加しようと思った理由は、将来、青年海外協力隊として、フィリピンでボランティア活動に携わりたいという目標があるためです。そのため、事前にフィリピンの交通課題や文化を、自らの目で見えて体験することが重要だと考えました。また、日本代表の青年として渡航し、同世代のユースリーダーと共に学び合える点にも魅力を感じ、応募を決意しました。

このプログラムの特徴は、日本国大使館や国際協力機構など、個人では訪問することが難しい機関を視察できる点にあります。渡航前には、派遣国への理解を深めるための事前研修が行われました。さらに、参加者が主体となり、現地で行うプレゼンテーションやアクティビティの準備も行います。

現地では、在フィリピン日本国大使館への表敬訪問、学校交流、ホームビジットなどを経験しました。大使館では、日本とフィリピンの関係や教育事情、大使館の役割について理解を深めました。学校交流では、日本の魅力を紹介するプレゼンテーションを行い、書道やちぎり絵を通じて、日本文化への理解を深めました。ホームビジットでは、マーケットを訪れたり、伝統料理を食べたりする中で、現地の生活文化を体感することができました。また、貧困世帯が暮らすバランガイを訪問し、貧困の現状や地域開発の取り組みについて視察しました。

今回のプログラムを通じて、フィリピンの文化や食生活、日本とフィリピン双方が抱える課題への理解が深まりました。訪問先では温かく迎え入れていただき、フィリピンの人々が日本に対して友好的な感情を持っていることを実感しました。一方で、貧困層と富裕層の格差の大きさも強く印象に残りました。貧困世帯で暮らす人々にとっての「幸せ」とは何かを考えたとき、それは私たちが想定する、先進国のように生活環境が整った場所で暮らすことだけを意味するものではないと感じました。幸せの在り方は、その人がこれまでに歩んできた背景や価値観によって異なるものであることを、現地での経験を通して強く実感しました。

さらに、戦時中の歴史を伝えるサンチャゴ要塞を訪問した際「フィリピン人は戦争のことで日本人を恨んでいますか」という問いに対し、ガイドの方が“Hate is a negative feeling, so it's better to have positive feelings instead, which will bring us happiness.”(「憎しみは負の感情なので、代わりに前向きな気持ちを持つ方がよいでしょう。その方が、私たちは幸せになれる。’)と語ったことが心に残っています。この言葉から、平和のためには、過去を正しく受け止めながらも、前向きな姿勢を持つことが大切だと学びました。

*JENESYSプログラムとは？

このプログラムは、日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、将来を担う人材の招へいや派遣、またはオンライン交流を通じて、日本への理解を深めることを目的としています。特に、日本とASEAN諸国との関係強化を重視し、日本への関心や理解・指示を広げ、日本の外交の基盤を強化することを目指しています。

National Youth Commission
(青年組織委員会)
への表敬訪問で
代表スピーチと
記念品交換

学校交流で
仲良くなった
ファー・イースタン
大学生の
Haileyと！

ホームビジット
先の近所の空き地で
出会った子どもたち。
フィリピンは英語教育
が発達していて、
小学生でも話せる
子供が多い。

貧困世帯が暮らす
バランガイ：
プラスチックゴミが
水面に浮かんでいた。
ご飯というより
スナックを食べていて
お腹だけ出ている
子供が多かった。

見て、感じて、学ぶ —好奇心が開く世界

ぬまはた
沼端 ももこさん

八戸聖ウルスラ学院高等学校卒
高校1年時、ライオンズクラブのマレーシア短期研修に参加
高校2年時、台湾の姉妹校に1年間留学
高校卒業後、国立台湾大学へ進学(現在 大学4年)

現在、私は台湾・台北市にある国立台湾大学の政治学部で、国際政治を勉強しています。台湾での生活では、日常的に中国語を使っており、今年で通算6年目になります。

初めて多文化社会を体験した場所 - 中華文化への興味の原点

私の海外経験の原点は、高校1年生の時に参加したマレーシア短期研修です。当時16歳だった私は、初めての海外渡航で大きな衝撃を受けました。日本は主に日本人によって構成される単一民族国家ですが、マレーシアは多様な民族と宗教が共存しており、異なる価値観を認め合いながら共存する文化の空気感に触れ、とても印象的でした。滞在中にお世話になった華人家庭では、初めて中華系の生活文化を体験し、これをきっかけに中国語や中華文化への関心が芽生えました。



マレーシアの
ホスト
ファミリー
との写真



台湾大学
にて

台湾で受けた刺激と中国語学習

高校2年生では、台湾東部の花蓮市に留学。中国語能力が全くない状態で台湾へ渡った私は、当初クラスメイトや先生と英語でやりとりをしていました。しかし、その英語でのコミュニケーションもスムーズにはいかず、強い焦りと不便さを感じました。そこでまず取り組んだのが、語彙を増やすことです。少なくとも自分の意思を伝えられるように「ご飯を食べる」「トイレに行く」「お風呂に入る」など日常生活に直結する単語から覚え始めました。生活の中で実際に使うことで、自然と身についていきました。



台湾東部
花蓮の海

中国語は発音が難しい言語ですが、声に出して練習したり、会話の中で

使いながら慣れていくことが上達への近道だと思います。文法は英語とほとんど同じで、また日本人は漢字に慣れているため、読み書きに関しても比較的取り組みやすいです。台湾の中国語は、繁体字が用いられ、巻き舌音をあまり使わない、比較的柔らかい響きが特徴です。こうした違いを体感しながら学ぶことで、言語への理解と興味がさらに深まりました。

留学中に最も印象に残ったのは、台湾の若者が政治や社会問題に関心を持ち、学校でも日常的に議論を交わっていたことです。先生や友人たちは自分の意見をはっきり持ち、社会の出来事を「遠い国の話」としてではなく、自分や母国につながる問題として考えていました。この経験が、国際社会や国内社会、さらには個人まで影響を及ぼす「国際関係」に関心を持つきっかけとなり、現在の学びにつながっています。

体験から学ぶことの大切さ

現代は情報にあふれ、便利になっています。知りたいことや必要な情報は、インターネットやAIを通じてすぐに手に入ります。しかし、こうした利便性は、知らず知らずのうちに自分で考え、選ぶ力を弱めてしまうこともあります。だからこそ、自分の五感を使って物事に向き合うことが大切です。「百聞は一見にしかず」の通り、目で見て体で感じた経験は、画面越しでは得られない価値を持ち、将来につながっていきます。

少しでも興味を引かれることがあれば、その気持ちを大切にしてください。好奇心は、新しい挑戦への第一歩です。私自身も、16歳での海外経験から始まった小さな好奇心の積み重ねが、今の学びや進路につながっています。



台湾の有名な
観光地 九份

八戸市からのお知らせ 外国人住民向け情報

Hachinohe City — Information for Foreign Residents

はちのへし ホームページ がいこくじんじゅうみんむ じょうほう たげんご ていきょう
八戸市のホームページでは、外国人住民向けの情報を、多言語で提供しています。

- 外国人相談窓口について
- 日本語教室について
- 防災情報

●はちのへの暮らし方(銀行口座の開き方、ごみの出し方・バスの乗り方 など)

がいこくじん
外国人の
お友達にも
教えてあげてにゃ!



はちのへし ホームページ
八戸市ホームページ
City Homepage



<https://x.gd/p4oQp>

Hachinohe City provides various information for foreign residents on the website.

- Consultation Counter for Foreign Residents
- Japanese Class Information
- Disaster Prevention Information
- Living Guide (How to open a bank account, separate your garbage, use the bus etc.)

会員募集!一緒に国際交流しませんか

八戸国際交流協会では、会員を募集しています。

当協会は、地域の国際交流や、多文化共生社会の推進を目的として活動しており、会員の皆様の会費によって運営されている団体です。多くの皆様のご協力をお待ちしています。

年会費 個人1口 2,000円 団体1口 10,000円

- 会員の特典
- 協会発行機関紙「りんぐりんぐ」をお届けします。
 - 協会主催の国際交流イベント情報をいち早くお届けします。
 - 協会主催のイベントや外国語講座で会員割引等の特典があります。
 - 部会(任意)に所属し、イベントの企画・運営や、機関紙の発行(取材・編集)等に関わることもできます。

★高校生・大学生のみなさんは「準会員」(無料)に登録できます。国際交流イベントや、学生ボランティア募集などの情報をメールで配信していますので、ぜひお気軽にご登録くださいにゃ!



八戸市マスコットキャラクター「いかずきんズ」

ボランティア募集!

当協会は、国際交流活動に参加していただけるボランティアを募集しています。

ボランティアとして登録できる方は、18歳以上で、次に掲げる条件を満たす方です。

- 条件
- 1) 八戸圏域内で活動できる方
 - 2) 国際交流に対する理解及び熱意がある方

活動内容 通訳・翻訳、ツアーガイド、ホームステイ、その他協会が認めた活動



入会・登録は協会ホームページから



編集後記

編集長 川崎康一

本号では、幼児期から大学生まで、さまざまな年代の子どもたちや若者の国際交流について特集しました。

幼児期に外国人と初めて触れ合い仲良くなり、高校時代には自らボランティアに参加したり、地域の課題解決のため国際交流活動を企画・運営したりするなど、主体的に関わっていく姿が見られました。そして、そうした経験をきっかけに、さらなる出会いや学びを求めて海外へ飛び立ち、それぞれの将来の目標に向かって突き進んでいく——本特集を通して、そんな頼もしい姿を垣間見ることができました。

私が会社に勤務していた時代は、人材育成の一環として品質管理活動が盛んに行われており、P(Plan/計画)、D(Do/実行)、C(Check/確認・評価)、A(Act/改善)という言葉や言葉を常に使っていました。それが、高校生の授業における課題解決で活用されていることにも、驚きと感心を覚えました。

国際交流活動に関心を持つ学生の皆さんは、大学進学や卒業後の進路として、県外に出て行く方も多くみられます。しかし、国内外でさまざまな経験を積んだ後には、ぜひ青森県に戻り、地域活性化に貢献する人材となっていたらと願っています。



発行・お申込み・お問合せ

八戸国際交流協会(八戸市 市民連携推進課内)

〒031-8686 八戸市内丸1-1-1

TEL: 0178-43-9257 FAX: 0178-47-1485

E-mail: hira.hachinohe@gmail.com

<http://hachinohe-hira.jp>

Instagram



@hachinoheworld

Facebook



イベント情報や写真もいっぱい見られるにゃ!